

抄
録

脊髓膜出血ト腰椎穿刺

(Luigi Millioni, Riv. crit. di clin. med. 1914.
Nr. 35.)

三十八歳ノ一農夫、酒客ナリ、微毒ヲ經過セザレドモ著シキ動脈硬化症ヲ有セリ、突然ニ倒レタレドモ失神スルニ至ラズ、數分時間ノ後ニ辛ウジテ歩行シテ家ニ歸レリ、烈シキ頭痛、四肢ノ疼痛、胸下部ノ緊縮ノ感、項部強直、二日後ノ熱發(三十八度五分乃至三十九度)、呼吸ハ淺表ニシテ歇代ス、諸反射亢進、ケルニッヒ氏症候ハ著明ナレドモバビインスキイ氏反射ハ無シ、膀胱直腸ノ官能ハ正常、尿蛋白量二・〇%、輕度ノ不整脈及ビ非常ニ輕度ナル脊椎ノ運動ニヨリテ激痛緩解ス等ノ諸症候ヲ呈セリ。

腰椎穿刺後(純出血性、白血球ナシ、無菌)諸症狀ハ急速ニ消退セリ、出血竈ハ上部頸髓ニ存セリ。(二藤香吉抄)

非微毒患者ノ「サルワルサン」注射
後ニ起リシ急性砒素中毒死ノ一例

(F. Lube, Deutsche med. Wochenschrift 1914.
Nr. 19.)

大動脈瓣不全閉鎖症ニ罹レル五十四歳ノ一婦人、嘗テ關節「ロイマチス」ヲ經過セシコトナシ、ワッセルマン氏反應陰性ナリシニモ拘ラズ四回ノ流産ヲ爲シタルガ故ニ微毒ニ疑ヒヲ置キテ「サルワルサン」療法ヲウケタリ、心臟瓣膜病ハ「サルワルサン」療法ノ初期ニ於テハヨク代償サレタリ、患婦ハ七日内ニ全量〇・八瓦ノ「サルワルサン」ニ堪ヘタリ、第六日ニ最後ノ「サルワルサン」療法ヲウケタル後ニ患婦ハ重篤ナル出血性腸炎ノ症狀ヲ呈シ尙ホ且死ニ至ルマデ黃疸ヲ有セシガ故ニ最初ノ腸症狀ノ現ハレテヨリ四十八時間ニシテ鬼籍ニ入レリ。

剖檢ノ結果ハ重キ壞疽性腸炎ト初期萎縮ヲ伴ヘル退行性脂肪肝トヲ示セリ、腦ハ臨牀的ニモ病理解剖的ニモ病變ヲ呈セズト雖急性砒素中毒症ノ診斷ハ確實ナリ、總テノ他ノ理由ヲ以テ説明シ得ザル本例ニアリテハ砒素ニ對

スル特殊ナル個人過敏性ニ因ルモノナルコトヲ認メザルベカラズ、腦症狀ヲ缺ギタルコトハ恐ラクハ微毒ヲ經過セザリシガ故ナルベシ、即チ今日マデ記載サレタル殆ト凡テノ出血性腦髓炎ノ諸例ハ何レモ皆微毒性ニアラザルハナシ、コノ際ニハ已ニ早期ヨリ「サルワルサン」ガ微毒ニ罹患セル腦髓ニ作用ヲ及ボスコトヲ得ルモノナリ。
(二藤香吉抄)

「ヨード」療法ノ危険

(Adolf Oswald, Korrespondenzblatt für Schweizer Ärzte 1915, Nr. 21.)

吾人ハ風土病性タル甲状腺腫ヲ有スル地方ニアリテ「ヨード」ガ少量―極メテ少量ニ而モ一過性ニ投與サレタル場合ニ於テ副作用ヲ呈スルコトアルヲ屢々觀察セリ、加フルニ數仙瓦ノ日々ノ増量又ハ通常ノ「ヨード」軟膏ヲ以テセル頸部ノ塗擦又ハ「ヨード」含有鑛泉ノ飲用等ニ因リテ來ルモノナリ。

コノ「ヨード」中毒症ノ症狀ハ甲状腺異常分泌症ノ症狀ト全ク同一ナリ、吾人ハ「ヨード」ヨリウクル影響ニヨリ

甲状腺細胞ニ堆積セル分泌物ガ集塊ヲナシテ腺ヲ去リテ循環器内ニ移行スルコトヲ認容セザルベカラズ、殊ニ實質性膠様甲状腺腫、神經性疾患其他ノバセドウ氏病、糖尿病、脂肪過多症及ビ家系ニ痛風ヲ有セル人々ハ「ヨード」ニ對シテ過敏性ナリ、女性及ビ高齢者ハ屢々罹患ス、本病ノ期間ハ五箇月ヨリ六箇月ニ互ル、豫後ハ一般ニ良ナレドモ只高齢者ニアリテハ心臟障碍ノタメニ死ノ轉歸ヲトルコトアリ、療法ハ純對症的ナリ、此ノ「ヨード」バセドウ氏病」ノ第二例ハ既ニ一千八百二十年ニゲンフェルノ醫師ニヨリテ記載サレタリ。

甲状腺腫ヲ有スル地方ニアリテハ「ヨード」ニ對シテ特ニ注意ヲ拂ハザルベカラズ。(三藤香吉抄)